

- 季節の花：・シャクヤク
・マリーゴールド
- コラム：ランの進化
- 情報：花のイベント

ふらっとふらわーず ニュース

- 発行：ふらっとふらわーず
- 2020春号：第30号
- 連絡先：042-315-4158
- 編集委員：内田信子

季節の花

★【シャクヤク】(芍薬)

ポタン科 / ポタン属

シャクヤクは「**立てばシャクヤク、座ればポタン**」といわれるように、ポタンと並んで高貴な美しさを漂わせ、豪華でエシガントな花を咲かせます。同属の植物でよく似ていますが、ポタンは**木本で冬も枝が残る**のに対し、シャクヤクの方は、**草本で冬は地上部が枯れ**、地中の根や芽で冬越しする点で**区別**できます。日本へは平安時代以前に**薬草**として伝えられました。その後、その後は観賞用として多数の園芸品種が**つくられて**きました。これは「**和シャクヤク**」と呼ばれます。

和シャクヤクは一重咲きや翁咲きなど、比較的**シンプル**です。しかし、花形のものが多いのに対し、ヨーロッパで育成された品種は「**洋シャクヤク**」と呼ばれ、こちらは手まり咲きやバラ咲きなど、**弁数が多く香りの強い**ものが多いのが特徴です。最近では両方の交配による新しい品種も育成されています。漢字で書く「**芍薬**」の「芍」は、**抜きんでて美しい**という意味からで、これが語源とも、たおやかで、やさしい姿を意味する「**綽約(しゃくやく)**」から転じた名前だとする説もあります。



ポタン



シャクヤク



ポタン

ポタンも同様の歴史を持ち、江戸時代には数多くの観賞用の園芸品種が生み出されました。しかし、江戸時代のポタンの品種は、わずかにその名をこめめるばかりで、現在栽培される品種の多くは、明治以降に作出されたものです。牡丹には**二期咲き**(早春と初冬)の性質を持つ品種があり、このうち**冬咲き**のものが**寒牡丹**と呼ばれています。寒牡丹の花は自然環境に大きく左右され、着花率が低く、二割以下といわれています。そこで、花の少ない冬に**お正月の縁起花**として抑制栽培の技術を駆使して開花させたものが**冬牡丹**です。「ポタン(牡丹)」という和名は、中国の花名をそのまま使ったものです。「牡」は「ボウ」と発音するため、当時は日本でも「**ぼたん**」と呼ばれていました。「丹」は**赤色**を意味しますが、「牡」は**雄(オス)**を意味します。唐時代には「**花王**」と呼ばれていたため、その王様のイメージから「牡」の字をあてた、という説もあります。



洋シャクヤク・ハラ咲き (サラヘルナール)



和シャクヤク・翁咲き (富士)

(参考：趣味の園芸「GardenStory」)

★【マリーゴールド】

マメキク科 / マンジユキク属

マリーゴールドは鮮やかな黄色や橙色の花を長期間次々と咲かせます。栽培も**容易**で、花壇の**定番**品目ともいえるポピュラーな花です。ポリウム感があり、マツ

ス植え(群植)や花壇の縁取り、コンテナ植えなど、広い場所から小さなスペースまで、**華やか**さを出すには好都合な草花です。品種も多いため、組み合わせによりさまざまなバリエーションを演出できます。草丈が低く枝分かれの多い**フレンチ・マリーゴールド**と、高性で大輪の**アフリカン・マリーゴールド**が主に栽培され、両種の交配種もあります。

独特のにおいがあり、**コンパニオンプランツ**として、育てた野菜や花のそばに植えることで、よい影響をもたらす植物で、「**植物のお医者さん**」と呼ばれるほど優秀です。様々な植物と相性がよく、根の分泌液が土中の**センチュウ**を遠ざけ、葉っぱのにおいには**防虫効果**が期待できます。アブラナ科(キヤベツなど)の野菜から、アオムシ、コナガ、ハムシ類を遠ざけるなど、様々な効果があるとされています。

育て方

栽培環境：日当たりと水はけのよい場所。土質はあまり選びません。生育の適温は15〜20℃くらいですが、夏の暑さにも耐え、軽い霜程度ならほとんど傷まず咲き続けます。**水やり**：鉢植えは、水切れで下葉が枯れ上がりやすいので、用土が乾き始めたら、たっぷりと与えましょう。

肥料：鉢植えでは、肥料切れしないよう、定期的にリン酸分の多い肥料を施しましょう。**ふやし方**：春にタネをまいて育てます。市販のポット苗を利用する場合は、霜の心配がなくなってから植えつけます。

花言葉：「勇者」「可憐な愛情」(花言葉辞典)
(参考：趣味の園芸、ホルティ)



アフリカン・マリーゴールド



フレンチ・マリーゴールド

コラム ランの進化

—昆虫との共進化—

ランは野生に咲くものだけで**25000種類**。今なお美しく進化を続けていると言われている。まず19世紀のヨーロッパで大ブームが起きました。きっかけとなったのは、イギリスで咲いた**1輪のカトレア**。一説によると**南米から荷物に紛れ込んで**もたらされた株が開花したものと伝えられています。王侯貴族や上流階級の人々が、神秘的な姿のこのランになり、競って珍しいランを集め、未知のランを手に入れるため、**オーキッドハンター**と呼ばれる人々を世界各地に派遣しました。



カトレア・ラビアタナ

ランは生活様式から「**着生ラン**」と「**地生ラン**」に大きく分けられます。着生ランは木の幹や枝、岩の上などに根を張り付けて自生する種で、地生ランは**うす暗い樹林内の地中に根を下ろして**生活する種です。このような場所で生活するのは、地球上に生まれたときにはすでに条件の良い場所は他の植物に支配されていて、**競争が少なく**て生き残る場所といえはそこくらいしかなかったから、と言われています。ランは地球上の植物進化の中でも**最も遅く誕生**した植物と言われています。そんなラン達が繁栄していくために取った「**戦略**」が「**昆虫との共進化**」と呼ばれるもので、共進化とは「密接な関係を持つ複数の種が、**お互いに影響を及ぼし合って進化**する」ことです。ランは子孫を増やすための**受粉のパートナー**として、**蜂や蛾、蝶**などの昆虫を利用します。ランの花が他の植物には無いほど**多様な姿**をしているのはそのためで、ランの中には、**虫さつくりの花**を咲かせるものや、機械のように見える形を持ったものや、様々な形があります。「**オフリス・フルシフローラ**」は、運び屋になる昆虫のオスを誘うべく、**花が昆虫のメスに擬態**しています。それはパートナーである昆虫を利用するための試行錯誤から進化したためなのでしょう。**リップ**は、中央に突き出た花びら部分ですが、大きく**複雑な形**をしていて、さまざまな**模様**が入っています。上部には**花粉の塊**が仕込まれていて、大きく華やかなリップに興味を持ち、やってきた虫を**奥へと導く**ような模様によって、中へと誘いこまれてゆきます。再び外に出るまでには、**背中に花粉の塊**がつき、知らず知らず**他の花へと運び**役割を果たしています。「**チョウラン**」の名で知られる**ファレノプシス**は、ギリシア語の「**蛾のよう**」に由来します。交配により、ピンクや黄色など様々な色彩があり、「**ミニ・チョウラン**」と呼ばれる小型種も数多く見られるようになりました。

(参考：趣味の園芸、花を飾る、ヤサシイエングエイ)



ブラッサボラ (着生)



エヒネ (地生)



オフリス・フルシフローラ



リップ



コチョウラン (原種)

情報

(事前申し込みあり)

- フラワーフェスティバル (事前申し込みあり)
- 3月20日(金)〜5月31日(日) 国営昭和記念公園
- 第30回2020日本フラワー&ガーデンショウ
- 4月24日(金)〜4月26日(日) パシフィコ横浜
- 第20回フラワーフェスティバル由木
- 4月25日(土)・4月26日(日) 京王南大沢駅周辺
- 大藤まつり2020
- 4月11日(土)〜5月20日(水)

あしかがフラワーパーク